

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.55

日時	2013年11月3日
行脚先	龍野城
住所	兵庫県たつの市龍野（播磨国）
行事名	

特徴

明応8年(1499年)に豪族の赤松村秀が鶏籠山に築き、以後政秀、広貞、広秀と続きました。
天正5年(1577年)羽柴秀吉の中国攻めが始まると、龍野城4代城主赤松広秀は戦わずに城を明け渡しました。
その後、秀吉の家臣石川光元が入封しましたが、光元は不便な山上から麓に城主の居館を移しました。
天正9年(1581年)蜂須賀正勝が5万3000石で入城し、その後の城主は徳川譜代の本多氏・小笠原氏・岡部氏・京極氏などめまぐるしく交代しました。
万治1年(1658年)城主京極高和の丸亀移転の際に破却されましたが、寛文12年(1672年)に脇坂安政によって龍野城が再建されました。現在、平山城の本丸には、本丸御殿、城壁、多間櫓、模擬埋門、隅櫓などが復元されています。

黒田官兵衛との関わり

永禄12年(1569年)5月、播磨龍野城主赤松政秀は3千の兵を率いて姫路城を攻めるべく、龍野を出発しました。
当時の姫路城は防御能力が低く、3百ほどの兵力しか動員できませんでした。
このため、黒田官兵衛は籠城作戦を諦め、城を出て姫路西方の青山で敵を迎えることにしました。
この作戦により、姫路に向かう赤松方に奇襲攻撃を加え、一旦龍野城に退却させることに成功しました。
龍野城に戻った政秀は翌6月に3千の兵を率いて再度龍野城を出発し、対する官兵衛は姫路西方の夢前川東岸にある土器山に陣を張りました。今度は政秀が夜に紛れて先制攻撃をかけ、黒田方を混乱に陥れました。
官兵衛は少ない手勢で必死に防戦しましたが、10倍にも及ぶ兵力の差はどうしようもなく窮地に立たされました。
この時、英賀城主三木通秋が280ほどの兵を率いて駆け付け、父小寺職隆も姫路城から援軍を送ったため、赤松方は姫路東方の小丸山に退却しました。黒田軍は大きな被害を受けましたが、官兵衛は戦力に劣る自軍は戦いが長引くと不利になると考え、体制を立て直すと同日夜に土器山の敵本陣を急襲しました。直前の戦いで黒田方に大きな被害を与えた赤松方は、わずか数時間後に攻めてくることを予想しておらず、大混乱のうちに龍野城に敗走し、官兵衛は辛くも勝利を収めました。
圧倒的な兵力の差で苦戦したこれら「青山・土器山の戦い」は官兵衛が指揮を執った最初の戦いであったと言われています。

応援品

【ヌメ皮】 たつの市様より
たつの市の名産である「ヌメ皮」を頂戴致しました。
この皮を用いて楽踊楽座の装飾品を製作させていただきます。



記録

